

群馬県立藤岡中央高等学校【定時制課程】学校評価一覧表①(平成27年度版)(様式1)

羅針盤			方策	平成27年度 第1回 点検・評価			平成27年度 第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な学習の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が70%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援、助言を行う。 ・毎時間、意識的に言語活動を位置づけるとともに、授業アンケートによってその効果を検証する。また、効果的な言語活動や学び合い等について校内研修を行う。 	A	C	○資格を取得し、自信や達成感を持たせることも大事だが、努力の過程が見えるような工夫をし、意欲を継続できるようにしたい。	D	C	○個別の学習テーマを設定し1年間かけて取り組むような新しい企画を考える必要がある。また、1学期に1回は、自分の成長を振り返ら
		② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が70%以上いる。		A	A	○単元の指導計画や年間指導計画に生徒の実態や教科の特性に合った学び合いやアクティブラーニングを導入できるようにしたい。	A	B	○アクティブラーニングを進めるための具体的方法について研修で共通理解をし、各科目でできることは何かを考える。一週間に一回は実施できるよう努める。
	2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路等についてきめ細かに支援する。 	D	D	○まず、積極的なHR経営を図り、生徒の居場所を作るとともに、数学・英語の学力が低い生徒の支援を行う。	B	D	○好きでないところとその理由についてアンケートをとり分析する。学校行事の練習で上級生と下級生の交流が進むように弾力的な運用を図る。
	3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育んでいますか。	④ 不登校から立ち直り、継続して登校できるようになった生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力、社会性を、4年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。 	A	A	○入学式しか登校できず留年した生徒が4日だけ登校して少し進歩は見られたが、進級はできないので今後のことについてしっかり指導していく。	B	A	○入学式しか登校できず留年した生徒は、結局登校できず、そのほかにも欠席が増えて進級できない生徒が一人出てきてしまった。少人数のため人間関係のこじれや固定化が起こりやすいので、HRだけでなく全授業で先生方に支援してもらおう。
4 対外的な行事等に積極的に参加するよう支援していますか。	⑤ 西毛地区体育大会やその他の大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定、ビジネス文書検定、情報処理検定等を受検する機会を設ける。 	A		○部活動をより活性化させ、勝ち負けにこだわらず、他校生と交流することで得られるものも多いことを教える。段階的に検定や資格試験に挑戦させ、達成感を味わえるようにし、努力を継続し主体的に取り組むことの大切さに気付くようにする。	A		○1～3年生は部活動に参加している生徒が多いので、更に練習内容を工夫したり楽しんでできるようにして参加率を上げる。検定試験への挑戦については、普段の授業で問題を取り入れるなど意識付けをする。	

群馬県立藤岡中央高等学校【定時制課程】学校評価一覧表①(平成27年度版)(様式1)

羅針盤			方策	平成27年度 第1回 点検・評価			平成27年度 第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の習熟度や諸事情に応じた個別的な指導を心掛け、授業改善をし、基礎学力向上を図る。 漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。 	C	C	○授業時間中に基礎・基本が身につくように学び直しを行うとともに、アクティブラーニングの学習活動を工夫する。また、少人数を生かした個別指導を行う。	B	D	○アクティブラーニングの課題を習熟度に応じた段階的なものにし、学び合い活動を取り入れて全員で基礎学力の底上げが図れるようにする。また、ICTを活用した課題を用意するなど定時制の生徒の実態に応じて興味関心を高める教材を工夫し、学習に対する満足感を高められるようにする。
	6 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率8割以上の生徒が60%以上いる。		<ul style="list-style-type: none"> 国語及びLHR活動の時間を使い、全学年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。 	C		○漢字テストはクラスの団体戦という意識を持てるように、学び合いを取り入れ、クラスの表彰も考える。	B	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 生徒のよい所に気付いた際に共有ファイルに入力し、情報を共有する。 	A		○生徒とのコミュニケーションは良好であり、教員相互で情報交換もよくやっている。教員が生徒のよいところを見つけて共有ファイルに記録する「いいところ見つけ」の取組が停滞したので、いいところの入力が多い生徒を表彰するなど、さらに積極的に長所を探してほめる活動を進める。	A		○教員が生徒のよいところを見つけて共有ファイルに記録する「いいところ見つけ」の取組が停滞したので、いいところの入力が多い生徒を表彰するなど、さらに積極的に長所を探してほめる活動を進める。
		⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対処に努め、解消率が100%である。				<ul style="list-style-type: none"> SHRや授業、部活動等あらゆる機会において生徒の様子を観察し、話の中からいじめの兆候をつかみ、対処する。 			C
	8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 出席状況不良者数が20%以下である。	<ul style="list-style-type: none"> 就業時間について雇用主に理解を求める。 家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。 	C		○欠席、遅刻が多いのは特定の生徒であり、個々の事情に応じた対応を工夫する。保護者や友人にも協力してもらいながら根気強く指導する。	C		○不登校経験がある生徒が多いため、欠席、遅刻、早退について強い指導に及び腰であったが、正当な理由がない場合には、しっかり指導する。教室で孤立しがちな生徒に教員側が積極的に言動で支援する。

群馬県立藤岡中央高等学校【定時制課程】学校評価一覧表①(平成27年度版)(様式1)

羅針盤			方策	平成27年度 第1回 点検・評価			平成27年度 第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRまたは「総合的な学習の時間」などで進路学習を実施する。 ・進路に関する最新情報を入手し、提供できるようにしておく。 ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。 	未		○進学・就職にかかわらず学ぶ意義について話をしていた進路講演会は、刺激を受けて進路決定に生かせるような効果があったと言える。どちらかというと就職面で課題が見られるので就職対策について効果的な指導を考えて実施したい。	B		○近年進学する生徒の方が多かったが、今年以降就職希望者が増えそうなので、就職している卒業生を呼んで話をしてもらう機会を作りたい。また、就職等に有利になる資格等の指導も積極的にしていきたい。
		⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。				<ul style="list-style-type: none"> ・年2回以上の保護者面談と進路講演会や「定時制便り」の進路指導特集号等により、進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。 			A
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ 在校生の就業率が70%以上である。(アルバイトを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。 ・雇用主と連携して、協力関係を保つ。 	B		○生徒の社会性を育むために就労できるようなアルバイト先の選択の助言や面接指導等を行う。	B		○今までアルバイトができなかった生徒もできるようになり、社会経験を積むことができた。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭ 職員が本校周辺の中学校を訪問して、学校説明、案内等を年1回以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期に職員が分担して各中学校を回り、本校定時制のよさをアピールする。 	未		○定時制のメリットを説明し、適した生徒の推薦をお願いする。不登校の中学生への働きかけ(適応指導教室等)や中学生への資料配付を強化する。	B		○タイムリーな発行と発行回数の増加、内容や体裁の改善などが図られているが、更に新しい記事の企画を行い、全生徒と保護者に読んでもらえるようする。
		⑮ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年6回以上発行する。				<ul style="list-style-type: none"> ・「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。 			未
	12 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑯ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・開校記念講演、交通安全教室、防災訓練、保健講話等の各学校行事で、地域の外部講師を招聘する。 	未		○地域の外部講師を既に3人呼んで、話をしていた。今後も、学校行事で講師を招聘する予定である。	A		○地域の外部講師を招聘した学校行事は9回であった。来年度も積極的に学校行事等に招聘し、生徒のために地域の教育力を活用させていただきたい。